

豆記者壁新聞コンクール

DATA

場 所：岩手県宮古市・山田町・釜石市・大船渡市・陸前高田市
 実 施 者：三陸国道工事事務所 地域づくり相談室 [TEL (0193) 71-1720]
 参 加 者：宮古市・山田町・新里村・釜石市・大船渡市
 陸前高田市の小学校26校 276名、教諭
 実 施 日：平成12年8月26日・9月30日・10月7日
 学 習 時 間：4～8時間

関係する分野

環境 交通 社会 地域 歴史 福祉 健康

背景

道路や港湾、下水道などの事業がどのような計画のもとに進められてきたのか、また工事現場では環境やリサイクルにどのような工夫をしたり、どのように工事を進めているかなどを、未来を担う子供たちから実際に見学(取材)してもらい、公共事業が地域社会に果たす役割について感じたことや、これら社会資本の整備により地域がどのように変わっていけばよいかを「子供たちの夢」として壁新聞に取りまとめ、地域にアピールしました。

内容

各地区(宮古地区、気仙地区、釜石地区)において、4市1町1村の26校の小学校児童が豆記者となり、三陸国道工事事務所や岩手県地方振興局の現場を取材しました。取材終了後、取材したときの写真やメモ、資料をもとに壁新聞を作成し、取材を通して感じた自分たちの考えを取りまとめました。その後全ての作品を学校、公共施設、ショッピングセンターなどを巡回展示。また三陸国道工事事務所が主催するイベントなどにも展示を行いました。



説明を忘れないようメモをする豆記者たち



実際に機械にふれ、工事の大変さを体感



トンネルの中ではマスクとヘルメットを身につけ見学



最後はみんなで記念写真

ポイント

- 地元新聞社の協力により、取材方法や壁新聞作成にあたってのアドバイスを頂き、自ら学び、まとめる力を高めます。
- 現場の選定においては、三陸国道の現場だけではなく社会資本整備を理解してもらうということから、岩手県振興局の現場なども広く取材しました。

- 現場では、実際に機械に触れ、工事の大変さを肌で感じるなど、ものづくりの魅力を感じてもらいました。
- 道路と自然環境との調和について考えてみるきっかけとなりました。

成果

公共事業が果たす役割や自分たちの暮らしとの関わり、環境に対する配慮について子供たち自らの目で理解して頂きました。作成した壁新聞は、コンクールで表彰し、その後学校や公共施設などに巡回展示しました。また壁新聞を「豆記者壁新聞作品集」として冊子にまとめ配布し、また取材風景をビデオ撮影したものをテレビ放映しました。この取り組みは、取材風景や壁新聞が地元新聞に掲載されるなど大きな反響がありました。広報紙「三陸国道ニュース」でも現場取材の様子を紹介しました。

参加者の声

「今回の取材では、普段みられないトンネルの中や実際に工事をしているところなどを見ることが出来てよかったです。また、環境への気遣いも分かってよかったです。」
 (宮古市立宮古小学校 6年生)

「初めて記者体験をやりました。取材したことをまとめるのが難しかったけど、とても楽しい経験をさせていただきました。」
 (陸前高田市立米崎小学校 6年生)

「仙人トンネルの時も釜石港の時も分かりやすく説明してもらったので、それを生かしていい新聞が書けたと思います。」
 (釜石市立白山小学校 5年生)



作品は公共施設に巡回展示



子供たちの壁新聞を一冊の本に



三陸の夢が詰まった壁新聞



東海新報 平成12年10月3日

次のステップに向けて

- 公共事業とは、地域の要望があって調査を行い、様々な意見を聞き、住民へのヒアリングを行い、住民の合意を得て開始され、完成した後の管理までも指します。多くの方々の参加のもと、事業が進められることを学習することもできます。
- 大きな事業が、地域にもたらす影響を考え、地域づくりへどう活かされていくべきか学習することも考えられます。